

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

いつまでもきれいな白谷雲水峡

神山小学校 6年 日高 駿太郎

「ボーンッ、ボーンッ、わあ、たいこの音だあ。たいこ  
岩に登ったぞあー」

小学一年生のころ白谷雲水峡に初めていっ  
た時、川のきれいさにおどろいた。歩いてい  
くと、どんどん森に入り、木がおいしげっ  
ていた。こけがどんどん増え、全体が緑になっ  
てきれいだった。

「わあ、すごい」

ぼくは改めて、自然におどろいた。

小学五年生の時、宿泊学習でたいこ岩に登  
った。たいこ岩に登るのは、これで二回目だ。  
ぼくは、「ジブリの「もののけ姫」のぶ台  
と重なった、こけむすの森」にいった。

「このために来る人もいるだろうなあ」

太陽がでてきたら、木と木の間から、光がと  
うってきれいだった。みんなで、弁当を食べ  
た。そのときぼくは思った。  
「このゴミってどうするのかなあ。ふくろに

No. 1

3 詩ほどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

入れて持ち帰ろう。ほかの人たちは、持ち帰  
 っているかなあ。  
 まわりを見たら意外とゴミが落ちていた。  
 ぼくは、それを気にしながら帰っていった。  
 ぼくは、山の、ごみ問題について考えてみ  
 た。最初は、ごみ箱を設置したらいいのかも  
 しれないと思った。しかし、たくさんの人が  
 来てごみ箱にごみを捨てるとき、よく、ご  
 みがあふれて、自然はかいいなくなって  
 動物たちにもあられ、よりきたなくなっ  
 しまう。  
 「ごみ箱じゃなくて、小さなふくろをくばっ  
 て持ち帰らしたらいいのがある。」  
 具体的に言うところ、入山するとき、ふくろ  
 をくはり、ゴミを入れてもらい、そのふくろ  
 を持ち帰ってもらおうということだ。  
 この方法はいいと思った。しかも、みな  
 持ち帰るようにふくろに、「ごみを持ち帰  
 ってくれてありがとうございます。」  
 などの文字を入れたら、持ち帰るのではな

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

いかこれならみんなもううれしくなるし、自然  
 にもいいと思う。  
 今後、ゴミのない屋久島になってほしい。  
 ぼくができるのは、家の周りのごみを捨てた  
 り、山登りのときにゴミを捨てたりすること  
 だ。だがこの一歩でよりよい未来になってい  
 くと思う。

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

